

謹賀新年



平成23年スタートいたしました。

昨年は大変お世話になりました。

私のHPをいつもご覧頂きありがとうございます。

今年は統一地方選挙の年、熊谷市議会も選挙の年です。

昨年の議会において議員定数が4名削減

(私が委員長でした)され、定数が32名となります。多くの新人も立候補するようで大変な激戦が予想されます。

国政が大きな混乱をしている状況の中で地方自治体の果たす役割は益々重要となつてまいりました。地方の自立と市民福祉

の向上を目指して私は4期目の挑戦を

いたします。

大変厳しい選挙となることが予想されますが何とか当選を勝ち取り、再び市政壇上で仕事出来るよう全力投球を致す覚悟です。

どうか皆様方の変わらぬご支援を本年も宜しくお願い申し上げます。

今年の冬は大変寒さが厳しいようです。

皆さまお体ご自愛下さい。

平成23年元旦

1月も半ばとなった。寒さが厳しく風邪ひきも多いようだ。

今日は何の日かご存知でしょうか。

初の「尖閣諸島の日」です。沖縄県石垣

市が条例で制定しました。そして石垣市で記念式典が開かれるほか、全国各地で政府の適切な領土政策を求める署名活動が行われるという。

政府は1895年1月14日、我が国の領土に編入する閣議決定をしている。

石垣市では記念式典を開催するが、菅総理からはまだ出欠の返事が無いという。

民主党内の内輪もめでそれどころではないのかもしれない。

日本はロシアとの間には北方四島、韓国との間には竹島、さらに尖閣諸島という、歴史的にも、法的にも日本領土なのに、相手が一方的に領有権を主張する「領域問題」があります。

然しながら、政府の対応はとても十分なものではありません。

国民の生命、財産を守ることは勿論、日本の領土を守ることは政府の一番の仕事ではないだろうか。マスコミも政府も今日の「尖閣諸島の日」にほとんど触れてないのが残念だ。日本の領土がだんだん侵略されてしまわないか心配だ。

政治の安定を望みたい。

平成23年1月14日

今日は節分。
日差しも幾分春めいてきたようだ。
それにしても今年の雪は大きな被害を出した。
雪国の人たちも春を待ち望んでいるだろう。
昨日は八木橋宏純君のお別れの会が開催された。
高校・大学と同期生だった彼のあまりにも突然の
訃報に大きなショックを受けた。
昨年体調を崩し入院されたが、退院後は元気に
ゴルフもやられていたようで、年末の高校同窓会
にも、用事があり出席できないが、と言ってお祝い
を本人が届けてくれた。
元気になってよかったと思っていた矢先だったので
驚きも強かった。
経済人としてだけでなく、文化人としても、教育者
としても色々な分野で熊谷の「顔」であった彼の
逝去は熊谷市としても大きな損失だ。
昨年11月にご子息宏貴さんに社長を譲られ会長
に就任したばかりだ。
彼が本次郎社長から社長を受け継いだのも
宏貴さんと同じ38歳だったという。
もう少し宏貴さんの成長を見守っていたかった
だろうと思ひ図られる。
高校の同級生が各地から数十人集まった。
お別れ会のあとは皆で彼の思い出を語りながら
酒を酌み交わした。
ご冥福を祈りたい。

合 掌

平成23年2月3日

今日は「**建国記念の日**」だ。
神武天皇の即位の日ということである。
然しながら実証的証拠はない。
米国のようにせいぜい200年余の歴史の国
であれば、独立宣言の日がはっきりしていよう。
日本のように古い歴史を有する国では「**建国の日**」
を新しく考えざるをえない。
最古の歴史書「**日本書紀**」に基づいて定めたので
ある。その日が事実であるかどうかというようなこと
は国民国家にとって本質的な問題ではない。
と、本日の産経新聞「**正論**」で加治伸行（立命館
大学教授）が述べている。
誠にその通りである。反対派の非難などに耳を
傾ける必用はない。
我が家でも今日は雨や雪のため国旗を掲揚しな
かったが、最近国旗を掲揚する家庭がほとんど
ないのは残念だ。
これほど国旗に対する意識の少ない国民は
珍しいのではないだろうか。
オリンピックやサッカーの試合での応援風景から
はとても信じられない。
国の印として国旗を大切にすることを進めなけ
ればならないのではないか。
自国の国旗を愛せない人間に、自国は愛せない。

平成23年2月11日

3月11日、議会の一般質問の最中でした。大きな揺れで議場の蛍光灯のカバーが1つ外れて釣り下がりました。

執行部と共に全議員が中央公園に避難しました。

余震が続き再開は無理ということでその日の質問は打ち切り翌日開催ということになりました。

マグニチュード9.0という最大の地震と共に大津波の被害は想像を絶するものでありました。いまだに多くの人たちの行方が分からないという惨状であります。

その上、原発の事故が続きました。これほどの災害は日本では初めてでしょう。

亡くなられた皆様に哀悼の意を表しますと共に、被災された方々に心からお見舞い申し上げ、被災地の日も早い復興を祈ります。

日本にとっては明治維新、大戦の敗戦につぐ第3の試練でありましょう。全国民が一つとなって被災地を支援すると共に、もう一度立ち上

がらなければなりません。頑張ろう日本。

そんな状況の中で、私たちは統一地方選挙を迎えます。こんな時に選挙どころではありませんが、こんな時こそ政治がしっかりしなければなりません。

また安心・安全・元気な熊谷市づくりに参画できるよう頑張ります。

後1カ月ですが、皆さまのご支援を宜しくお願い致します。

平成23年3月25日

統一地方選挙も前半戦が終わった。
いよいよ後半戦ということで出番となる。
東北大地震・原発事故などの影響で大変
やりにくい選挙となる。県議選をみても盛り
上がりが無かった。選挙どころではないとい
うことかも知れないが、盛り上がりはともかく
として、もっと投票率が上がってほしかった。
市議選は有権者にとって一番身近な選挙
なのでもう少し上がるだろう。
立候補予定者もほぼ出そろったようだ。
42人になりそうで10人オーバーというところ
になりそうだ。
3期12年間の活動が問われるわけで
今任期でも議会改革や行財政改革に取り
組んできたが、有権者の皆さまがどのように
評価してくれるか心配なところだ。
何としても議席を勝ち取り、再度「安心・安全・
元気」な熊谷づくりに取り組ませて頂きたい。
投票日まで残り10日ばかり、必死で戦うので
ご支援を宜しくお願い致します。

平成23年4月15日

温かいご支援ありがとうございました。

4期目の挑戦でしたが又何とか議席を獲得することができました。

新人が16人も立候補し、大変厳しい選挙戦でした。その上、東北大地震による大変な被害が発生し、戦いにくい選挙でありました。

私も不利になることは承知で、選挙活動の自粛をいたしました。被災地の悲惨な状況を見ますと、今までと同じ選挙活動がどうしても出来ませんでした。

そんな中で、ご支援下さいました皆様に感謝申し上げます。ご支援頂きました皆様の期待を裏切ることのないように、議員活動をしっかりと参ります。

いつの間にか、桜の花も終わり、新緑が目眩しく輝いております。

5か月ラケットを握っておりません。

少しずつまたテニスも初めたいと思います。

筋肉が相当落ちてしまいました。

明日は現職議員最後の集まりがあります。

今期を最後に引退する議員の皆さんとお別れです。長い間お世話になりました。

今後とも宜しくご指導下さい。

平成23年4月27日

13日、臨時議会が開催された。
選挙後の臨時議会では、議席の指定や
議長、副議長をはじめ監査委員や、農業委員、
各常任委員会委員や委員長などが選出される。
議長選挙においては4期の磯崎 修議員が当
選し新議長に就任した。
副議長には2期の山田忠之議員が就任した。
監査委員には公明党の三浦和一議員が就任
し、農業委員には大島和浩・小林一貫・福田
勝美議員がそれぞれ就任した。
今まで、大変調整が難航し、遅くまでかかって
いたが今回は6時過ぎに終了した。
私は常任委員会は「総務文教」に所属するこ
ととなった。
6月定例議会は8日開会となり27日に閉会
となる。
一般質問は20日、21日、22日に行われる。
これから質問書の準備にかかりたい。
新しい議員による最初の定例議会で、活発な
議論が行われることを期待する。

平成23年5月14日

6月定例議会が8日開会された。

改選ご初の定例議会だ。新人議員を含め活発な議論が展開されることを望む。

一般質問は20日、21日、22日の3日間で、20人の議員が質問に立つ。

今議会から質問席が設置され、再質問は自席でなく質問席で行うこととなった。

私は今回も一番バッターで20日10時から質問に立つ。

今回の質問は

1. 東日本大震災より学ぶ
(バックアップについて)
2. 自治体クラウドについて
3. 熊谷駅南口再開発について
4. 教科書の採択について

以上4点について質問する。

特に教科書の採択は、教育基本法が改正されて初めての採択となるので、過去2回の質問の時とはとは違って大切な採択だ。

そして本年から熊谷市独自の採択となるということで静ひつなうちに、公正な採択が行われることを期待している。

10年以上も埼玉県全ての採択区で同じ会社の教科書が採択されているという、異常な状態を改めなくてはならない。

平成23年6月14日

東北大震災から2カ月半が過ぎたが、連日震災の状況がテレビで放映されている。地震・津波に加えて原発事故という3重苦である。

頑張れという言葉は使いたくないが、他の言葉が思い浮かばない。選挙中もいつも思い悩んでいたが今回仲間の有志と現地を視察することができた。勿論、被災地の役所は通さず、あくまで個人として被災地の状況をこの目でしっかりと見ておきたい思いからだ。

そして災害の恐ろしさを肌で感じて、熊谷市における災害対策に少しでも役立たせることが出来れば、との思いであった。

石巻の駅をでて歩き始めると、中州が見えた。ほとんど壊滅状態である。川に沿って歩くと、だんだん被害が大きくなっていく。地元の人に聞くと、この先はもっとひどい被害だという。

門脇町に入ると、状況は一変した。今まではかろうじて家の形が残っていたが、ここでは見渡す限り建物はない。そんな中で大勢の自衛隊員が作業をしている。他の人影はほとんどない。テントを張り野営している。全く頭が下がる思いだ。翌25日は**多賀城市**に向かった。とても移動範囲が広いので、タクシーで移動した。

道路はかたづけられているが一歩それると全く手つかずの状態だ。あちこちに津波に巻き込まれた車の残骸がプレスされたように残されている。

海水浴で有名な**七ヶ浜町**に着くと、見渡す限り家がない。皆津波で流されたのだろう。発する言葉もない。

これから復興するには気の遠くなるような時間とお金がかかることだろう。息の長い支援が必要だ。私たちに出来ることは何か。今後しっかり考えながら支援していこう。

平成23年5月26日